

優和のミニかわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

考える力を育てる

企業では、一定の成果を確保するためにマニュアルやチェックリストを利用することがあります。しかし、このようなものを徹底すればするほど、気づく力や考える力は奪われていくように思われます。マニュアルやチェックリストに載っていないことはスルーしてしまって大きなミスにつながるというようなことも発生します。その上、そのミスはマニュアルやチェックリストの不備のせいともなれば、ため息も特大級になろうと言うものです。

実はこのマニュアルやチェックリスト、高度経済成長下における大量生産時代には有効な手段でありました。しかし、現代では製品もサービスも多様化しているだけに、この悩みは深刻にもなりますし、ここからの脱却は企業の生死を分けると言っても過言ではありません。その問題に対する解決策の一つが、個々の「考える力」を育て、磨き上げ、常に「考える」クセを付けるという提唱です。簡単にまとめると、

その① 常にもっと良い方法はないかと考える習慣を身に付ける

環境は刻々と動いていますから、昨年と同じ昨日と同じでよいはずはありません。

その② 良い提案や方法についてはそれを水平展開していく

同じ課題をバラバラに取り組んでいるということはよくあることです。課題を共有し知恵を出しあう習慣を身に付けること。そして、どこかの部署や誰かが良い方法を見出したらそれを共有してより発展させていこうということです。

その③ 常に現場やマーケットの視点を意識する

情報は現場にあります。特にマーケットに常に直接接している最前線の情報を知る事は大切です。

その④ 本質を見抜く分析力を身に付ける

表面的な出来事に目を奪われることなく、本質を見極め対応して、振り回されないようにすることも必要なことです。

その⑤ 行動に移し、行動することで新しい発想を生み出す

変化の激しい時代、時間をかけて考えているのは状況に対応できなくなります。まず行動してみてその反応を見ながら施策をブラッシュアップしていくというスピード感を持つことで、成長につながります。